資料その他３

# 第 2 期長期モニタリング計画に基づく中間評価の実施について（共通資料）

## 1. 全体スケジュール

＜評価の実施時期＞

| 年度 | 2012～2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | **2027** | 2028 | 2029 | 2030 | 2031 | **2032** |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 計画期間 | 第１期 | **第２期** | | | | | | | | | | （第３期） |
| 評価 | 第１期<br>総合評価 | | | | | | **第２期<br>中間評価** | | | | | **第２期<br>総合評価** |
| モニタリングデータ | | | | | | | | | | | | |

・中間評価は、対象期間を 2022～2026 年度（5カ年）とし、2027 年度に実施する。

・総合評価は、対象期間を 2022～2031 年度（10 カ年）とし、2032 年度に実施する。

・中間評価及び総合評価は、各対象期間に得られたモニタリングデータに基づき、実施する。

## 2. 各 WG/AP における作業手順

**2026 年**

**第 1 回 WG/AP・科学委**

**① 作業スケジュールの共有**

**② 評価の枠組み（評価手法）の確認と担当するモニタリング項目・評価項目の確認**

第 2 回 WG/AP・科学委

① モニタリング項目のデータ取得状況の確認

② モニタリング項目の 5 年データの整理結果

③ 未取得データ、課題の取り扱い方針協議

2027 年

第 1 回 WG/AP

① モニタリング項目の評価案（評価シート）提案・協議

第 1 回科学委

① 科学委担当のモニタリング項目の取り扱い

② 評価項目の評価の取り扱い協議（特に複数 WG との調整が必要な評価項目）

第 2 回 WG/AP

① モニタリング項目の評価確定

② 評価項目の評価案（評価シート）提案・協議

第 2 回科学委

① 評価項目の評価の確定

2028 年以降（必要に応じて）

① 総合評価に向けた取組の継続

② 課題整理と評価の枠組みの見直し

## 3. （中間）評価の枠組み

＊_第 2 期モニタリング計画を基に議論を行う

＊_モニタリング項目の評価、評価項目の評価のみ実施予定

＊_評価の枠組みそのものに対する疑義や課題があれば、次期計画への反映に向けて議論を行っていく

## 4. 河川工作物 AP が担当するモニタリング項目･評価項目

### モニタリング項目・一覧

| No. | モニタリング項目 | 主たる実施主体 | 対応する評価項目 |
|---|---|---|---|
| 17 | 河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数のモニタリング | 林野庁、北海道 | Ｂ、Ｉ、Ｊ |
| 18 | 淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況（外来種侵入状況調査含む） | 林野庁 | Ｃ、Ｄ、Ｅ、Ｊ |

### 評価に係る総括表

**【評価項目の評価　Ｂ】**

| 評価項目 | 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されているか（クライテリア(ix)生態系） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 評価基準 | サケ類が遡上し、持続的に再生産していることやそれらを捕食するヒグマ個体群の状態を遺産登録時の状態と比較海域の生物相の生息状況、多様性をおよそ登録時（またはデータベースのある時点）と比較 | | | | |
| モニタリング項目の評価 | | | | | |
| モニタリング項目 | 評価基準 | 評価指標 | モニタリング手法 | 主たる実施主体 | 評価主体（担当 WG/AP） |
| 17　河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数のモニタリング | ●各河川にサケ類が遡上し、持続的に再生産していること<br>●河川工作物による遡上障害が実行可能な範囲で回避されていること | ●遡上数<br>●産卵床数<br>●河川工作物の遡上及び産卵への影響 | ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川にてカラフトマス等の遡上量を推定するため、遡上中の親魚数、産卵床数の調査及び稚魚の降下数調査を実施 | 林野庁<br>北海道 | 河川工作物 AP |

**【評価項目の評価　C】**

| 評価項目 | 遺産登録時の生物多様性が維持されているか（クライテリア(ｘ)生物多様性） |
|---|---|
| 評価基準 | ける生物群集、生物相、生息密度、分布等の状態や希少種の生息生育状況、外来種の分布状況等を遺産登録時もしくはそれ以前の状態と比較 |

| モニタリング項目の評価 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| モニタリング項目 | 評価基準 | 評価指標 | モニタリング手法 | 主たる実施主体 | 評価主体（担当 WG/AP） |
| 18　淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む) | ●資源量が維持されていること<br>●外来種の分布拡大、個体数増加の抑制が十分為されていること<br>●河川工作物などの人為的影響が気候変動に伴う水温上昇を加速させないこと | ●オショロコマの生物量<br>●外来種の生息状況<br>●河川水温 | イワウベツ川等において、魚類相、オショロコマの生物量及び水温変化を把握 | 林野庁 | 河川工作物 AP |

**【評価項目の評価　D】**

| 評価項目 | 遺産地域において気候変動の兆候が見られるか |
|---|---|
| 評価基準 | 気象データ等の変動や傾向から気候変動の兆候が見られるかを評価 |

| モニタリング項目の評価 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| モニタリング項目 | 評価基準 | 評価指標 | モニタリング手法 | 主たる実施主体 | 評価主体（担当 WG/AP） |
| 18　淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む) | ●資源量が維持されていること<br>●外来種の分布拡大、個体数増加の抑制が十分為されていること<br>●河川工作物などの人為的影響 | ●オショロコマの生物量<br>●外来種の生息状況<br>●河川水温 | イワウベツ川等において、魚類相、オショロコマの生物量及び水温変化を把握 | 林野庁 | 河川工作物 AP |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | が気候変動に伴う水温上昇を加速させないこと | | | | |

**【評価項目の評価　Ｅ】**

| 評価項目 | 知床の世界自然遺産としての価値に対する気候変動の影響もしくは影響の予兆はみられるか | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 評価基準 | 体数変動、分布域の変化、生物季節の変化、種間相互作用の変化、群集構造・種多様性の変化が見られるのかを評価するとともに、その変化が気候変動によるものなのかを評価 | | | | |
| モニタリング項目の評価 | | | | | |
| モニタリング項目 | 評価基準 | 評価指標 | モニタリング手法 | 主たる実施主体 | 評価主体（担当 WG/AP） |
| 18　淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む) | ●資源量が維持されていること<br>●外来種の分布拡大、個体数増加の抑制が十分為されていること<br>●河川工作物などの人為的影響が気候変動に伴う水温上昇を加速させないこと | ●オショロコマの生物量<br>●外来種の生息状況<br>●河川水温 | イワウベツ川等において、魚類相、オショロコマの生物量及び水温変化を把握 | 林野庁 | 河川工作物 AP |

**【評価項目の評価　Ｊ】**

| 評価項目 | 河川工作物による改良等により、サケ科魚類の再生産が可能な河川生態系が維持・回復しているか | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 評価基準 | 河川工作物による遡上障害が実行可能な範囲で回避されていることを検証 | | | | |
| モニタリング項目の評価 | | | | | |
| モニタリング項目 | 評価基準 | 評価指標 | モニタリング手法 | 主たる実施主体 | 評価主体（担当 WG/AP） |
| 17　河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数の | ●各河川にサケ類が遡上し、持続的に再生産していること<br>●河川工作物による遡上障害が | ●遡上数<br>●産卵床数<br>●河川工作物の遡上 | ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川にてカラフトマス等の遡上量を推定するた | 林野庁<br>北海道 | 河川工作物 AP |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| モニタリング | 実行可能な範囲で回避されていること | 及び産卵への影響 | め、遡上中の親魚数、産卵床数の調査及び稚魚の降下数調査を実施 | | |

**【評価項目の評価　Ⅰ】**

| | |
|---|---|
| 評価項目 | 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続可能な水産資源利用による安定的な漁業が両立されているか |
| 評価基準 | 海洋生態系を特徴付けるアザラシ、トド、シャチといった海棲哺乳類の生息状況や被害実態、漁獲量やスケトウダラの資源状態等から評価 |

| モニタリング項目の評価 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| モニタリング項目 | 評価基準 | 評価指標 | モニタリング手法 | 主たる実施主体 | 評価主体（担当 WG/AP） |
| 17　河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所・産卵床数及び稚魚降下数のモニタリング | ●各河川にサケ類が遡上し、持続的に再生産していること<br>●河川工作物による遡上障害が実行可能な範囲で回避されていること | ●遡上数<br>●産卵床数<br>●河川工作物の遡上及び産卵への影響 | ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川にてカラフトマス等の遡上量を推定するため、遡上中の親魚数、産卵床数の調査及び稚魚の降下数調査を実施 | 林野庁<br>北海道 | 河川工作物 AP |

△

| 関連するモニタリング | | | | |
|---|---|---|---|---|
| モニタリング項目 | 指標 | モニタリング手法 | 主たる実施主体 | 評価主体（担当 WG/AP） |
| ②「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握 | ●漁獲量 | 漁獲量を調査 | 北海道水産林務部 | 海域 WG |